《新連載・7》

「世の中は変えられる　信じて行動を」

理事長　高見　優

標記は、先日（3/29）、新潟に講演に来られた村木厚子さんの言葉です。（主催 /NPO 法人新潟県就労支援事業者機構、後援 / 新潟保護観察所・新潟県・新潟日報社ほか）

「社会は変えられないわけではありません。女性や障がい者の働き方は良い方向に変わってきました。みんなが声をあげ、政治や行政、現場の人の努力もあって変わってきたのです。世の中は変えられます。若い人は、そこを信じて行動して欲しい」
（https://miraimedia.asahi.com/terrace_04/ より）

村木厚子さんは、厚労省在職中に冤罪事件で逮捕され（164日拘置）、そこで刑務作業をする女性らと出会い、保釈後、自身の裁判は無罪となり、復帰後、厚労事務次官に就任されました。拘置所で知った女性らの境遇を生み出す社会を何とかしたいと考え、冤罪被害に対して支払われた国家賠償金（3千万余円）を基金として女性の相談支援団体（若草プロジェクト）を立上げ、また、生活困窮者自立支援法の制定にも関わり、さらに刑余者に対する地域生活定着支援センターの運営の改善などにも尽力されるなど、現在も「共生社会を創るために」福祉の仕事をされています。

私たちが地域で「福祉・生きがい・仕事」の事業・活動を通して支え合いの地域づくりをしていく上で大変勇気づけられ、また多くの学びのある内容でした。困難を抱える人は複数の課題があり社会との関係が切れていることが多いので、まずは本人の尊厳、信頼による支え合い、そして社会資源をつなぎ続けることの大切さを強調されました。村木さんの体験からも、人は一夜にして、支えられる存在になりかねないのだから、自分事として関わりたいと思いました。

◇ ◇ ◇

1999年の「国際高齢者年」を契機に結成された「高齢社会NGO連携協議会」（高連協）という団体があり、日本高齢協連合会も加入しています。先般、長年共同代表を務めて来られたお二人、堀田 力さん・樋口恵子さんが健康上の理由もあり退任されました。

堀田さんは退任あいさつで、「働く人材の不足が顕著の日本で、高齢者に限らず生活に困っているすべての人々の生きがいを維持するためには、すべての人が、自分とまわりの人々のためにできることをし、お互い助け合っていくほかに方法はないと考えます」と述べました。

村木さんも堀田さんも、私たち高齢協・ささえあい生協とほぼ同様の認識、共通の考えを持っているように思います。さらに堀田さんは、NPO・NGO や協同組合、企業や労働組合、そしてその他の団体の社会活動が広がっているけれど、それらの動きの連携が見受けられず、全体として大きな安心感をもたらすところまで至っていない、（だから）これから大きなネットワークづくりが必要であり、それには特定の立場にとらわれない純粋に民間の立場で「民の力」を動員して取り組んでほしい、と提言されました。

◇ ◇ ◇

当生協は今、役職員や組合員の方から多くの意見が寄せられ、改革案がまとめられようとしています。また新しい総代も選出されました。次世代のリーダー候補を加え、新旧リーダーが本年度1年かけて一緒に法人組織の事業・活動を担う予定で、いずれバトンタッチしたいと考えています。

最近社会問題化している、空き家管理や身寄りなし問題、孤独・孤立、生活支援など、組合員や地域から相談や要望が増えています。ささえあいグループでは、介護や就労支援の事業のほか、居宅介護支援（ケアマネ）や訪問看護、医療、特養、成年後見、身元引受、居住・生活支援から終活、協同墓まで、非常に多彩で多方面の相談・支援サービスが可能になってきています。

私たちは、行政ほか地域の諸団体と幅広く連携し、また全国の仲間（「高齢社会」を生きるすべての世代が共に支え合い、安心して暮らし続けられるまちづくりをめざす）日本高齢協連合会・労働者協同組合などとも連携していきます。

もちろん、私たちの組合員、役職員がまずしっかりと支え合って自らの事業・活動を着実に進め、地域社会に根ざして、地域で必要とされ組合員・住民の皆さんに役立つ仕事を進めていきます。

私たちすべての人は、生まれて以来、たくさんの人（＝社会）の支えがあり、この先も、社会の中で生き・はたらき・くらし続けていくのですから。

「本人が努力しても変えられないことで運命が決まってしまう世の中は、すごく嫌です。」（村木さん）

どうか皆さん、一緒に支え合って、よりよい職場・地域・社会を築いていきましょう。

（ご質問・ご意見を本部事務局までお寄せください。）